

# 行政視察報告書

委員会名	総務委員会
派遣委員	委員長 梅田 徳男 副委員長 甲斐 尊 委員 戸匹 映二 委員 大塚 州章 委員 奥田富美子 委員 内藤 康弘
日程	令和7年10月27日(月)
視察先	埼玉県飯能市
調査項目	公共交通の取り組みについて

## 1. 調査目的

飯能市は、ボランティア組織による送迎や、NPO法人による有償運送、スクールバス混乗制度など、地域の実情に応じた地域主体の移動手段を確保しています。高齢化に伴い、移動手段の確保が市民の生活に直結する深刻な課題となっているため、制度の内容や協力体制などについてご教示いただき、本市の持続可能な交通網の構築に反映できるよう調査・研究を行うことを目的としています。

## 2. 調査内容

### (1) 視察先の概要

飯能市は、埼玉県南西部に位置し、人口約78,000人、面積193.05平方キロメートルの森林文化都市です。市域の約75%を森林が占め、水と緑に恵まれた豊かな自然環境が特徴です。都心から約50km圏内にあり、西武池袋線を利用すれば池袋へのアクセスも良好です。林業が盛んで、古くから「西川材」として知られる木材産地でもあります。近年は、北欧のライフスタイル体験ができる「メツァ」や「ムーミンバレーパーク」の開業により、首都圏の近郊都市として発展を続けています。

### (2) 調査結果

飯能市では、公共交通空白地の移動手段を確保するため、地域主体の公共交通を推進し、地区の状況に応じた交通網を確立しています。なかでも県北部の吾野・東吾野地区は県内でも高齢化率トップクラスの交通空白地であるため、平成30年より、新たな交通システムとして、NPO法人による交通空白地自家用有償運送「奥武蔵らくらく交通」を運行しています。地域住民だけでなく観光客等の来訪者も利用でき、地区内のどこからでも乗車可能で、降車は市内全域で可能としており、料金は概ねタクシーの半額程度としています。運行実績も右肩上がり推移しており、令和6年度は過去最高の1,410名の方が利用しています。この交通システムが地域に与える効果として、鉄道までのアクセス向上等による地域内観光の促進、高齢化対策として地域住民の活動促進、地域活性化が挙げられます。

また、地域福祉推進組織「たすけあいあがの」が主体となり、地区で開催されるサロンや市内の商業施設まで、社会福祉協議会貸与の車両で無償送迎する「たすけあいあがの(らくだ号)」が運行されています。

そのほかの地域住民の移動手段として、スクールバス混乗制度を導入していましたが、児童数の増加により混乗スペースの確保が困難になったため、現在は利用停止中となっています。

以上、各種移動手段を組み合わせた結果、市内における公共交通のカバー地域は約96%となっています。

### 3. 委員会の所感

地域が一体となった公共交通空白地自家用有償運送の確立には、リーダーシップを取る旗振り役の存在が重要であるとともに、交通事業者等とのしっかりした協議が必要であることがわかりました。また協議の中で、移動手段について地域が担う部分と、民間交通事業者が担う部分とのすみ分けが必要であり、地域住民の移動手段の現状把握のための調査の必要性も感じました。本市でも助け合いの移動手段については、あまべ振興協議会が先進的に実施していますが、その例を参考にしながら、将来の公共交通のあり方について、地域振興協議会、行政、民間交通事業者で具体的な協議を更に進めていくべきであると感じました。

### 4. 視察状況

